



# News Letter

国際農業機械化研究会

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町1-12-3 新農林社内 電話 03-3291-5718・3674

INTERNATIONAL FARM MECHANIZATION RESEARCH SERVICE

c/o SHINNORIN-SHA, 1-12-3 KANDA NISHIKI-CHO, CHIYODA-KU, TOKYO, ZIP101-0054 JAPAN., TEL. 03-3291-5718・3674

News Letter 通巻 450号

2012. 5. 21  
毎月1回・20日発行

発行責任者  
岸田 義典

## 目次

# 2012

- 国際農業機械化研究会報告会より……………2  
インドの農機事情  
株式会社新農林社 代表取締役社長 岸田義典
- 国別輸出入 (2012年2月)……………9
- WORLD NEWS……………15
- EVENTS CALENDER……………17

# 4



国際農業機械化研究会  
(株新農林社社長)  
岸田義典理事長

国際農業機械化研究会は(株新農林社と共催で、第 451 回海外農機事情報告会を、平成 24 年 4 月 24 日(火)に開催した。講師は国際農業機械化研究会 岸田義典理事長(株新農林社社長)。講師は 2 月 25～3 月 4 日までインドを訪問。「ISAE (インド農業工学会)」の総会に出席後、「ICAR (インド農業研究機構)」主催のイベントや、関連の農業資材・機械の展示を視察して帰国。インドの農機事情について映像とともに報告した。

要旨は以下の通りである。

2 月 27 日から ISAE インド農業工学会の 46 回年次大会がパントナガールの G. B. Pant 農工大学で行われました。G. B. Pant 大学はインドで最初にできた「土地交付大学」です。政府が用意した土地につくる大学で、米国にも同じような大学があります。その農業工学部の 50 周年祝賀会が行われました。同時に穀物の貯蔵に関する国際シンポジウムが開かれ、アメリカの ASABE (農工生物工学会)、CSB (Canadian Society of Biologicial Engineers) の会合などが共催で行われました。

その後、3 月 1～3 日までニューデリーにある「ICAR (インド農業研究機構)」、日本で言う農研機構のような組織の本部で「FARMER' S DAY」というイベントが開催され、一般の人に研究成果などをわかりやすく紹介していました。同時に関連の農業資材・機械の展示会が行われ、それも見てきました。

今回久しぶりのインドでしたが、強い感銘を受けました。子供も大人もみんな元気なのです。やはり、今後良くなっていくと国民全体で信じている、これから未来に向かって明るい希望があることが元気の源なのかなと思いました。

農業についても、我々からみると少し楽観的過ぎると思えるような発言を有識者がしています。学会

の講演でも、「人口が増えて食糧が不足する危機があると言いますが、インドではその危険はありません」とさえ言っていました。「現在既に食糧は需要より供給が大きい。今後人口が増えても今のインド農業の成長率を考えると十二分に食糧は賄える。むしろ農業、農産物を輸出できる国になっていくと思う」という発言をしている方が多数いました。我々の心配に対して非常にポジティブでした。

それでは、『インドにおける農業機械化への投資』(ガジェンドラ・シン氏とインドラ・マニ氏著)という資料をもとにお話をします。

まず、著者を簡単に紹介します。著者のガジェンドラ・シン氏は、インド人でありながら長い間タイの AIT の教授を務め、農業工学部長をしていました。1990 年に我々がアジア農業工学会 (AAAE) を立ち上げたときは、彼が初代の会長に就き、私が副会長となりました。古い付き合いで、私が出版している『AMA (Agricultural Mechanization in Asia, Africa and Latin America)』という英文の雑誌の Co-editor も長い間務めてくれています。インドに帰国後は、大学の副総長、そして ISAE の会長を務めました。一方のインドラ・マニ氏は、インド農業工学研究所の部長であり、インド農業工学会の事務